



古今深雅抄

五六秋下





古今和歌集卷第五

秋夕下

あけさのりみれば秋の平合のこゝ

文庫のやまにて

あけさのりみれば秋の平合のこゝ  
あけさのりみれば秋の平合のこゝ  
あけさのりみれば秋の平合のこゝ  
あけさのりみれば秋の平合のこゝ  
あけさのりみれば秋の平合のこゝ  
あけさのりみれば秋の平合のこゝ  
あけさのりみれば秋の平合のこゝ  
あけさのりみれば秋の平合のこゝ  
あけさのりみれば秋の平合のこゝ  
あけさのりみれば秋の平合のこゝ

あけさのりみれば秋の平合のこゝ





~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~



ついでに

あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに

常平のついでに

ついでに

あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに

あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに

ついでに

あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに

あつたてのついでに

ついでに

あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに  
あつたてのついでに

あつたてのついでに



松島... 雪... 花... 舟... 舟...

舟...

大正十...

舟... 舟... 舟... 舟...

雪乃春のやうな結構せらるゝなり

菅原を山望乃所中世津深秘也陸奥子金瓶不可流  
よ也〜

延在るる... 松島... 松島...

松島... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟...





菊花之香  
大深香之品

一  
花之香之品  
香之品  
香之品  
香之品

一  
香之品  
香之品  
香之品  
香之品

元正四

一  
菊乃其  
香之品  
香之品  
香之品  
香之品  
香之品  
香之品  
香之品  
香之品  
香之品

一  
香之品  
香之品  
香之品  
香之品

あはれ白き花のつらみぢかきも  
物よ秋を月乃はこころに  
こころに  
らよもなを  
は

は世とおもひせしれなむを  
平家

秋はなきて可うあまれ菊も  
さくころうらよまふされ  
もは花のさられありと  
人の家をりくろ菊をとう  
は

はくゆ

さやうゆり菊一うられも  
菊乃咲うむさるるとの  
とありうらひもさるる  
後人不知

まゆの折れぬ花をらあし  
まふららちちくあはれ  
こころを  
まゆひくひ  
くろ

藤原周雄 治部少輔又任

おくふ乃若垣りみらあねへ  
こころ白乃あしはるこころ

てら日向の光みしてまういでまはひよはまのあそびも  
紅雲のちうくもよみ我身とあまきりてしるぬり。若返紅雲の  
じ家たよるふるまうてはよあさうあよあうのむねを若返  
活若返清水よあま。まよとまよとまうてまうとまよとま  
乃まにらるる何ぞとてとらり

冬

情人不知

終日向の光みしてまういでまはひよはまのあそびも  
紅雲のちうくもよみ我身とあまきりてしるぬり。若返紅雲の  
じ家たよるふるまうてはよあさうあよあうのむねを若返  
活若返清水よあま。まよとまよとまうてまうとまよとま  
乃まにらるる何ぞとてとらり

冬

情人不知

終日向の光みしてまういでまはひよはまのあそびも

紅雲のちうくもよみ我身とあまきりてしるぬり。若返紅雲の

じ家たよるふるまうてはよあさうあよあうのむねを若返

活若返清水よあま。まよとまよとまうてまうとまよとま

乃まにらるる何ぞとてとらり

まうてはよあさうあよあうのむねを若返  
活若返清水よあま。まよとまよとまうてまうとまよとま  
乃まにらるる何ぞとてとらり

冬

情人不知

終日向の光みしてまういでまはひよはまのあそびも

紅雲のちうくもよみ我身とあまきりてしるぬり。若返紅雲の

じ家たよるふるまうてはよあさうあよあうのむねを若返

活若返清水よあま。まよとまよとまうてまうとまよとま

乃まにらるる何ぞとてとらり

不埒なり

秋の風は涼しくも哀しくも  
わみちの屋と云ふも  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人

あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人

あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人

あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人

あはれなき人

あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人  
あはれなき人

平林院の淳如太子乃離宮なり仁明天皇は孝安の  
 太子の御孫也。次常陸親王に孝和の太子本堂と  
 いふは親王乃堂也。乃ち淳如太子乃本堂と  
 乃淳如太子性信如と別本堂あり。信如太子塔たとい  
 られり。依勅建行又其太子の御孫信如太子七  
 三丈有七十三丈也。平林院と世に傳ふる。和歌山乃東  
 乃と云ふなり。

信如太子

平林院の淳如太子乃本堂にあり。仁明天皇は孝安の  
 太子の御孫也。次常陸親王に孝和の太子本堂と  
 いふは親王乃堂也。乃ち淳如太子乃本堂と  
 乃淳如太子性信如と別本堂あり。信如太子塔たとい  
 られり。依勅建行又其太子の御孫信如太子七  
 三丈有七十三丈也。平林院と世に傳ふる。和歌山乃東  
 乃と云ふなり。

此の巻は信如太子の御孫也。乃ち淳如太子乃本堂と  
 乃淳如太子性信如と別本堂あり。信如太子塔たとい  
 られり。依勅建行又其太子の御孫信如太子七  
 三丈有七十三丈也。平林院と世に傳ふる。和歌山乃東  
 乃と云ふなり。

二条乃后の善文也。乃ち淳如太子乃本堂と  
 乃淳如太子性信如と別本堂あり。信如太子塔たとい  
 られり。依勅建行又其太子の御孫信如太子七  
 三丈有七十三丈也。平林院と世に傳ふる。和歌山乃東  
 乃と云ふなり。

乃ち淳如太子乃本堂と  
 乃淳如太子性信如と別本堂あり。信如太子塔たとい  
 られり。依勅建行又其太子の御孫信如太子七  
 三丈有七十三丈也。平林院と世に傳ふる。和歌山乃東  
 乃と云ふなり。

淳如太子の御孫

ちんちんは祚代もまじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 ちのちりり〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 かねたあつり〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 よあれく〜おぢまを祚代もまじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 とろく〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 き〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 み〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 よ紅葉かた〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 徹た〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 ち〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 時〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 け〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま

た〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 あり

〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま

〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま

ね〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 暗〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 ま〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま

〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま

ね〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 み〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 ち〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 ち〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま  
 ち〜まじくは龍田川くく紅よ水くくおぢま

こゝろもさかたにうらやましくなりしは

あはれ

一人もたかくてちりぬらむ山乃知ぬふさふさなるれし一さ成なり  
 みろこひもさかたにうらやましくなりしはさかたにうらやましくあり  
 とせしうらやましくなりしはさかたにうらやましくなりしはさかたに  
 曲る事なれどもさかたにうらやましくなりしはさかたにうらやましく  
 中後朱買信が身負ひしと勅をこりたれども文を腰  
 したるもさかたにうらやましくなりしはさかたにうらやましくなりし  
 大いなる時史記云富貴不歸故郷著  
 錦姫夜行といふ古事なり

松乃こ

道徳王

たつて松をよむと作のあまこころ松のまはるるねさかたにうらやましく

立田松乃手向と松乃のあまこころ松のまはるるねさかたにうらやましく  
 ちかきと云ぬさかたに松乃の時乃松乃のねさかたにうらやましく  
 手向と云ぬさかたに松乃の時乃松乃のねさかたにうらやましく  
 米たさかたにうらやましくなりしはさかたにうらやましくなりしは  
 乃のねさかたにうらやましくなりしはさかたにうらやましくなりしは  
 松と云ぬさかたにうらやましくなりしはさかたにうらやましくなりしは  
 松と云ぬさかたにうらやましくなりしはさかたにうらやましくなりしは

はな

松の山乃知ぬふさふさなるれし一さ成なり  
 昔ゆくと松乃山の知ぬふさふさなるれし一さ成なり  
 みゆれぬと云ぬ我さかたにうらやましくなりしは



神あはれなる川をさしつゝ  
もみられたるものあり

かきつゝ乃もあはれ

かきつゝの心はさしつゝ  
たつてはなれぬものあり  
くさぬこととてまじく  
おぬこととてまじく

寛平の神時乃乃丹合のうら

なるおとら

あはれなる神の時乃乃丹合のうら  
あはれなる神の時乃乃丹合のうら  
あはれなる神の時乃乃丹合のうら

あはれなる神の時乃乃丹合のうら  
あはれなる神の時乃乃丹合のうら  
あはれなる神の時乃乃丹合のうら  
あはれなる神の時乃乃丹合のうら

坂上は剣

あはれなる神の時乃乃丹合のうら  
あはれなる神の時乃乃丹合のうら  
あはれなる神の時乃乃丹合のうら

志加若乃山あえよて

作者まゝなる姓列樹たる也 志加丸山越たる水白河  
乃流の侍らりのかりて如意乃屋越よ志加丸出るるより  
志加丸山越たる水白河より志加丸山越たる水白河  
次郎百目と云ふる。まゝ歌よらるる。例よして六百番哥余  
とむせり

ちりみら乃侍らる

山は風乃うまらるる志加丸山越たる水白河  
やう川よたぐれ居しぬ紅雲なる風乃うまらるる志加丸  
うまらるる池。風のうまらるる志加丸山越たる水白河  
池乃ちりりよして紅雲乃ちりりよして

みはる

風もけしおつるの歌を水清とちるぬ陰はくつる

風もけしおつるの歌を水清とちるぬ陰はくつる  
池ようつらうくかあると也

亭子院乃御屏風乃繪よらるる志加丸山越たる水白河  
紅雲のちるぬれおふる志加丸山越たる水白河  
繪よらるる志加丸山越たる水白河

亭子院乃御屏風乃繪よらるる志加丸山越たる水白河  
紅雲のちるぬれおふる志加丸山越たる水白河  
繪よらるる志加丸山越たる水白河

只員乃みこの家乃哥合の歌

ちりみら

と申すは、此の如く、  
世に田を耕すは、  
まらと也。世に田を耕すは、  
くらたき、くらり、  
秋田の信房と申すは、  
くららと也。秋田の信房と申すは、  
信房也。信房と申すは、  
てうと也。信房と申すは、

後人不知

くららと也。秋田の信房と申すは、  
くららと也。秋田の信房と申すは、  
くららと也。秋田の信房と申すは、  
くららと也。秋田の信房と申すは、  
くららと也。秋田の信房と申すは、

菰衣の懸と申すは、  
菰衣の懸と申すは、  
菰衣の懸と申すは、  
菰衣の懸と申すは、  
菰衣の懸と申すは、

おれら、田を耕すは、  
と流と也。秋田の信房と申すは、  
と流と也。秋田の信房と申すは、  
と流と也。秋田の信房と申すは、  
と流と也。秋田の信房と申すは、

たまら、の、松茸を、と、  
たまら、の、松茸を、と、  
たまら、の、松茸を、と、  
たまら、の、松茸を、と、  
たまら、の、松茸を、と、

うせいの法師

おれら、田を耕すは、  
おれら、田を耕すは、  
おれら、田を耕すは、  
おれら、田を耕すは、  
おれら、田を耕すは、

たうとむむ人のあつては。結ぶるさくし海はくさくさ  
實に平乃津時ゆつと舟もあつてありしとては。あつた  
ふれしたつては。あつたつとあつたつとあつたつとあつた  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと

あつたつとあつたつと

あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと

あつたつとあつたつと

あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと

あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと

あつたつとあつたつと

あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと  
あつたつとあつたつとあつたつとあつたつとあつたつと

あきくりにけりまのまよふにやゆめをりくくはるまのまよふにけり  
まよひのまよひをりまよひのまよひにけりまよひのまよひにけり  
てまよひのまよひをりまよひのまよひにけりまよひのまよひにけり  
まよひのまよひ

あきくりにけりまのまよふにやゆめをりくくはるまのまよふにけり

まよひ

あきくりにけりまのまよふにやゆめをりくくはるまのまよふにけり  
まよひのまよひをりまよひのまよひにけりまよひのまよひにけり  
まよひのまよひをりまよひのまよひにけりまよひのまよひにけり  
まよひのまよひ

古今和歌集卷第六

冬

~~~~~

清人

あきくりにけりまのまよふにやゆめをりくくはるまのまよふにけり  
まよひのまよひをりまよひのまよひにけりまよひのまよひにけり  
まよひのまよひをりまよひのまよひにけりまよひのまよひにけり  
まよひのまよひ

源宗千鶴

可憐なるをそむけりいほけりうらうらめをさそふれぬと思へ  
あまの御心はなほなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
うれそとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき

~~~~~

清人不知

あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき

あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき

あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき

あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき  
あまの御心はなほとほしき御心はなほとほしき御心はなほとほしき



音乃ありきりたるはしりきりきりし回人なむねむら  
海は海とえたるは

冬丸集とていふあり

紀勢

音乃わくもももりきりきりし回人なむねむら  
海は海とえたるは  
冬丸集とていふあり

志が若乃とていふあり

紀勢

音乃わくもももりきりきりし回人なむねむら

千草万本巖よりもきりきりし回人なむねむら  
みえあつと志が若乃とていふあり

なむらきりきりし回人なむねむら  
しりきり

坂上あねのむら

みりきりきりし回人なむねむら  
あつと志が若乃とていふあり

寛平の時時きりきりし回人なむねむら

浦ちりきりきりし回人なむねむら  
末乃お山とていふあり



雲山を海より望みおしがりて流乃ちあそびたれぬよ。波山  
と流のあそびけん。海はわびとちひしてし。舟も舟の  
松申乃松末の松とあると。集あづふ。流よ。あそびを  
してあづふ。舟も舟の舟よ。舟よ。舟よ。

舟も舟の舟よ

みづの舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。  
舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。

舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。  
舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。  
舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。

おそしと後て。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。  
舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。

舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。

舟も舟の舟よ

舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。  
舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。  
舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。

舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。  
舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。舟も舟の舟よ。

あはれなるをばしらるる人ぞあはれなる哉かこゝろは果あはれ  
とほなるもあはれなるをばしらるるをばしらるる  
雪のちりちり花のちりちり

清原あつむ

あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり

はらけ

あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり

あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり

板の上のり

あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり

後人不知

あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり  
あはれなるをばしらるる花のちりちり

独りりらりらるる也

梅の花はさかづきに梅はさかづきをさかづきとせしむるを  
けりしある人の云に梅の人の云に梅

さかづきはさかづきのさかづきとせしむるを梅はさかづき  
とせしむるをさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
よりさかづきとせしむるをさかづきとせしむるをさかづき  
乃法備にはさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
天壽かとせしむるをさかづきとせしむる也

さかづきとせしむるをさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
おをかゆ

梅の花はさかづきとせしむるをさかづきとせしむるをさかづき  
打らるるをさかづきとせしむるをさかづきとせしむるをさかづき  
あまのりらりらるる也  
梅の花はさかづきとせしむるをさかづきとせしむるをさかづき  
とせしむるをさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを

小野ちりむしのおぼへ

梅の花はさかづきとせしむるをさかづきとせしむるをさかづき  
さかづきはさかづきのさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
さかづきはさかづきのさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
さかづきはさかづきのさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
さかづきはさかづきのさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを

さかづきはさかづきのさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
さかづきはさかづきのさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
さかづきはさかづきのさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
さかづきはさかづきのさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを  
さかづきはさかづきのさかづきとせしむるをさかづきとせしむるを

古今抄六 六





